

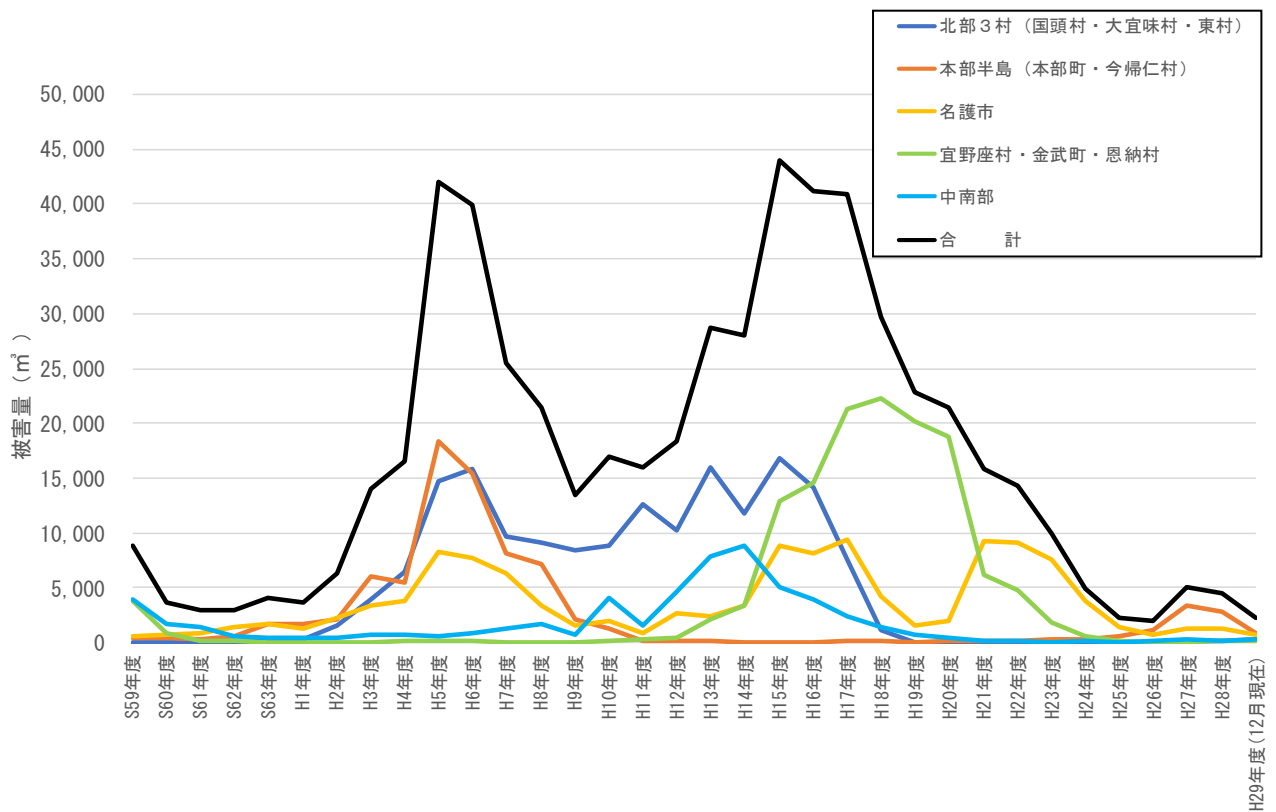
3.3. 被害状況の動向把握

県全体での被害状況の動向を把握することによって、今後の被害予測及び施策方針検討に活かすことができることから、県全体及びエリアごとの被害状況の推移を整理することとした。

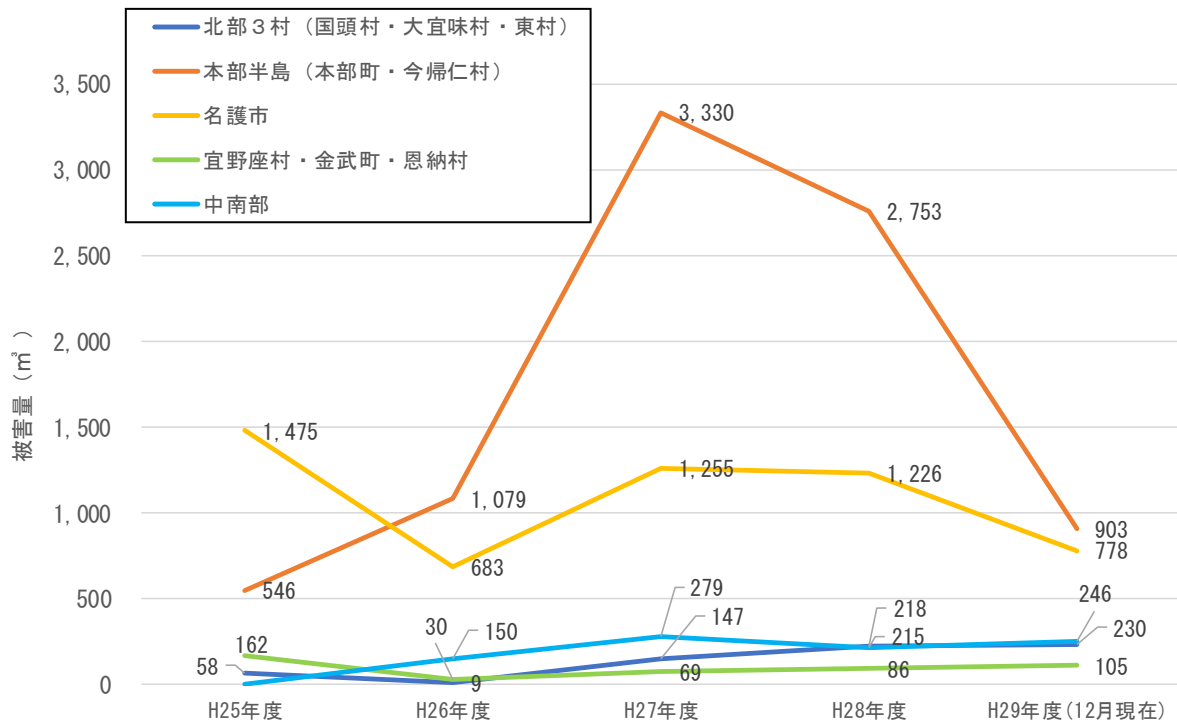
(1) 推移と施策の推移の動向整理

各年の被害材積量を提供いただき、これを集計図化して、全県的な被害動向を把握することとした。県全体及びエリアごとの被害状況の推移を図Ⅱ.3.3-1に示す。

また、直近5年間の推移を図Ⅱ.3.3-2に示す。



図Ⅱ.3.3-1 松くい虫被害状況の推移 (H2~H29.12月)



図Ⅱ.3.3-2 松くい虫被害状況の推移 (H25～H29.12月)

(2) 地区ごとの推移

平成24年以前に比べて、県全体の被害量は減少傾向にあるが、エリアごとの平成25～28年度の推移からは、本部半島での被害急増や、北部3村での被害増加傾向が見られた。平成29年度においては本部半島地域で終息傾向が見られたものの、北部3村での増加傾向は継続した。

県全体では、平成24年以前より、減少傾向にあるが、松くい虫被害によって主に大径木や老齢木が枯死し、資源量そのものが減少したことが一因となっていることが考えられる。

これらのことから、大径木や老齢木が多く残存し、資源量の多い北部3村の北端ライン以北への被害拡大の抑制は、本県のマツ資源保全上、重要な課題と考えられる。

